

第4回（2013年度） 学会認定・臨床輸血看護師試験の結果

2014年3月26日

学会認定・臨床輸血看護師制度

協議会 会長 大戸 齊

審議会 会長 田崎哲典

試験委員長 梶原道子

(1) 筆記試験

1. 実施日時、会場：平成25年11月3日（日、祝）、京都大学
2. 時間、内容：2時間、多肢選択式問題30題（60点）、記述式問題7題（40点）
3. 受験者数：184名（受験申請者185名中、受験辞退者1名を除く）
4. 成績：平均点76.0点、最高点92点、最低点50点、標準偏差9.4点
5. 筆記試験合格者数：178名

(2) 病院研修

1. 期間、会場：平成26年1月6日～3月3日
学会認定・臨床輸血看護師制度協議会の認定施設
2. 研修者数：177名
（研修対象者は、筆記試験合格者178名と、昨年度の施設研修未了者2名の計180名であったが、3名が施設研修を辞退した）
3. 研修終了者数：177名
（施設研修を受けた177名において、不合格と判定された者はなかった）

(3) 最終認定者数、認定率：177名、94.7%

（受験申請者185名+前年度病院研修未修了者2名 に対する割合）

(4) 講評

京都大学を会場として、平成25年11月2日（土）に講習会が、3日（日、祝）に筆記試験が行われた。今回の申請者総数は185名（新規申請182名、再申請3名）であったが、1名が辞退され、184名が講習会、試験を受けた。

講習会は初日13時よりスタートし、6名の講師により途中で約20分の休憩を挟み、19時まで行われた。

筆記試験は翌日に行われ、講習会参加者184名全員が受験し、結果は上記の如く、178名を合格と判定した。

病院研修は全国48の指定施設で行われた。評価は、①輸血の意義と目的、②血液製剤の取り扱い、③輸血看護、④輸血副作用、⑤輸血検査、⑥血液製剤の準備・払い出し・管理、⑦症例検討の計7項目について、それぞれ（a）特に優れている、（b）優れている、（c）良い、（d）劣る、の4段階で行われた。（a）評価は、順に③輸血看護（42.4%）、④輸血副作用（32.8%）で、⑤輸血検査が最も低く28.3%であった。また⑦症例検討も30.5%と低く、看護師であっても輸血検査や主要な疾患の病態・生理・治療を輸血療法の視点で総合的に整理しておく必要がある。なお総合判定で（d）と評価された受験者はなく、病院研修を行った177名の修了が確認された。

以上より第4回目は177名が学会認定・臨床輸血看護師と認定された。過去、3回までの445名と合わせると、認定者数は622名となる。わが国のベッドサイドでの輸血の安全性は、学会認定・臨床輸血看護師により、着実に向上していると思われる。